

2018年度「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成先選考結果のご報告

第四回目となります「重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成」につきまして、助成先が決定いたしましたので、ご報告いたします。

助成先団体及び対象となる事業（50音順）

| 団体名 | 事業名 | 助成希望額 |
|---------------------------|--|-----------|
| 一般社団法人 大阪科学技術センター | 院内学級への出前理科実験教室の充実 | 1,007,590 |
| 特定非営利活動法人 かごしまコネクションズ | 退院後の児童・生徒を対象とした学習支援事業 | 543,763 |
| 一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト | 『WOW！働く体験』： 病気の子どもの可能性を拓く、職業体験事業の推進 | 1,150,000 |
| 特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス | 小児がんや難病の子どもと社会をつなぐ 『かえっこバザール』の開催 | 1,725,000 |
| 認定特定非営利活動法人 ポケットサポート | 病気を抱える子どものICTを活用した学ぶ意欲支援事業 ～中間支援～ | 650,000 |
| 特定非営利活動法人 みらいず | ホームページとSNSを活用した医療的ケア児についての情報発信 保護者向け相談会、医療的ケア児ときょうだい家族対象イベント 支援者育成 | 1,668,000 |
| 認定特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ | 入院中の学習支援及び復学支援のための 対面ないし遠隔地に対応可能な支援者育成事業 | 1,658,400 |

今回の助成について

募集期間：2018年7月20日～2018年9月15日

助成金総額：10,000千円

応募数：26件 採択事業数：7件（計8,402,753円）

助成対象となる活動期間：2019年4月1日～2020年3月31日

助成選考委員会：助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ5名の選考委員（当財団理事1名と外部有識者4名）で組織する選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長からのコメント

本助成は、重い病気により困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びを支援する事業を対象としたもので、4年目の実施となります。助成事業を行っていることが広く知られるようになった結果、応募は全国各地からあり、これまで最も多い26件となりました。しかし、活動に取り組む団体自体が絶対的に少なく、広がりを感じている領域だと感じています。

助成選考委員会にて厳正に審査を行い、7件を採択しました。今回の審査でも例年通り、以下の観点を重視しました。

- ・モデル性：他の団体のモデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか
- ・地域との連携：病院や学校などとの連携により、活動の実効性が高いか
- ・継続性：助成終了後の事業継続の見通しがあるか

すぐれた取り組みであるにもかかわらず、助成期間終了後の活動継続が困難であると見込まれるため、採択には至らない団体がありました。採択された団体の皆様には、本テーマにおいて先駆的な活動を実践している団体として、よきモデルとなっただけを期待しています。

当財団では、助成団体をサポートするだけでなく、本テーマがいっそう社会的に認知され、関心が広げることに寄与する活動にも取り組んでいきたいと考えています。

公益財団法人ベネッセこども基金
理事・選考委員長
耳塚寛明

【団体名】

一般財団法人 大阪科学技術センター

【URL】

<http://www.ostec.or.jp/>

【申請事業名】

院内学級への出前理科実験教室の充実

【メッセージ】

当財団では、科学技術の振興ならびに関西産業発展のための諸事業を積極的に推進しており、活動目的の一つである「次世代層への科学技術の普及啓発」の一環として、大阪科学技術館の運営をはじめ、各種学校等への出前理科実験教室を実施しております。大阪府内を中心とした特別支援学校や院内学級への出前理科実験教室は、平成19年から10年以上にわたり実施しており、今後も各企業等の協力も得ながら、院内学級をはじめ、特別支援学校への出前理科実験教室の充実を図っていくべきと考えています。

今回の助成では、今まで当財団になかったノウハウであり、院内学級での活用が期待されているICTを活用した授業について、実施校や大学の協力を得ながら新たな手法等を構築し、院内教室に通学できる子どもをはじめ、重度の病気の子ども達にも、より体験的で参加性のある理科実験を体験してもらう機会をつくることを目的に実施します。

今回の活動をもとに病院関係者へのICT活用の理解促進を図るとともに、理科実験教室の実施事例を充実化することにより教職員等への活用・普及を図っていきたいと思っております。

最後になりましたが、今回、公益財団法人ベネッセこども基金のご支援いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

【団体名】

特定非営利活動法人かごしまコネクションズ

【URL】

<https://kagoshima-connections.jimdo.com/>

【申請事業名】

退院後の児童・生徒を対象とした学習支援事業

【メッセージ】

当法人では『青少年』をキーワードに『すべての子どもが共生し、発達成長できる社会の実現』の理念のもと、児童福祉事業(放課後デイサービス)、ボランティアコーディネート事業、青少年健全育成事業の3本柱で活動を行っております。

その中で青少年健全育成事業では、主に学習支援に取り組んでいます。学習支援は、病気に伴う入院。通院の弊害により、学校の授業についていくことが、難しくなってしまうお子さんや学習への不安を起因として、不登校や引きこもりなどといった二次障害におちいってしまうお子さんがいます。

そういう現状を感じながら、何かそこにサポートできないかと考えていたところ、2016年に、「入院していたお子さんの勉強を見てくれる人がいないだろうか。」といった相談を受け、そこから学習支援がスタートしました。

今では、保護者様の口コミにより、様々なお問い合わせや相談を頂いております。

そこでまだまだ、支援の輪が必要だと感じ、この度公益財団法人ベネッセこども基金様の2018年度重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成に応募いたしました。

この助成をもとに、サービスを知らないご家庭への周知や支援員の育成を行い、お子さんが楽しい学校生活がおくれるようにできればと思っております。

この度は、公益財団法人ベネッセこども基金とご支援いただける皆様にご心より感謝申し上げます。

【団体名】

一般社団法人こどものホスピスプロジェクト

【URL】

<http://www.childrenshospice.jp/>

【申請事業名】

『WOW！働く体験』：病気の子どもの可能性を拓く、職業体験事業の推進

【メッセージ】

この度は、2018年度重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成に選んでいただきありがとうございます。

当団体は2016年春、日本初のコミュニティ型こどもホスピス「TSURUMIこどもホスピス」を大阪市鶴見区にオープンしました。慈善寄付によって運営する難病のこどもと家族のための第2のお家がコンセプトです。生命を脅かす病気（LTC：life-threatening-condition）の子どもとその家族にホスピスケアを提供するTSURUMIこどもホスピス（TCH）は、病気の子どもの「生きる」を地域で支えようとする実践の場であり、現在、TCHを利用する登録メンバーのうち、33名の学童時期のこどもが様々なケアを受けております。

病気の子どもが病気と闘う以外に、どうすれば『生きていくこと』を積極的に学ぶ機会を得られるでしょうか。部活やバイトをやろうと思えばやれる状況にあったとしても、それに取り組む意欲や自信は、幼少期から学童期の体験が大きく影響しています。成功体験だけでなく、失敗から学ぶ体験も同じく大事ですが、治療を最優先されてきたLTCの子どもの場合、それらを実体験の中から学ぶ機会はほとんどないため、同級生や先輩など同世代との関わりの中から、未来の自分について考え、学べる環境は乏しく、それらは意図して作っていかなければ、自然に生まれることはほぼなく、学校教育の中にそれらを求めることもかなり難しい事です。

LTCの子どもにとって、成功する体験、誰かに喜ばれる体験、そして自分が誰かのため何かできた体験は、彼らが生きていく力を大きく支える学びになると考えます。LTCの子どもが、孤立せずに社会で生きていく方法を、生きていく力を養う学び体験として、本事業に取り組んでいきたいと思ひます。

【団体名】

特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス

【URL】

<http://kemohouse.jp>

【申請事業名】

小児がんや難病のこどもと社会をつなぐ『かえっこバザール』の開催

【メッセージ】

今回の事業では、かえっこバザール*という一般のこどもと家族が楽しむことのできるイベントを開催し、重い病気のこどもたちについて正しい知識と理解を深めるワークショップを開催します。

また入院中や在宅療養中で、普段は外のイベントに参加できないこどもたちがインターネットなどでかえっこバザールに参加できるように支援をします。

一般のこどもと重い病気をもつこどもが同じ空間、時間を過ごすことにより、重い病気を持つこどもたちが学校や地域で生きやすい環境をつくるきっかけとなることを目指しています。

*かえっこバザールとは、現代美術作家の藤浩志氏によって発案された、こども同士で遊ばなくなったおもちゃ等を交換するための活動。

【団体名】

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

【URL】

<https://www.pokesapo.com/>

【申請事業名】

病気を抱える子どものICTを活用した学ぶ意欲支援事業～中間支援～

【メッセージ】

引き続き、本事業に対し助成を採択していただきありがとうございます。

以前より関わっていましたが、小学生の頃から長期入院をしていた子どもが、中学校へ復学をしました。しかし学習空白が大きく、積み重ねが必要な教科に不安があり、ポケットサポートを利用して学習支援を行うことになりました。自宅療養も続く中、ICTによる学習支援で自信を取り戻し、定期テストを頑張って受けることができました。良い点が取れたことがとても嬉しかったようで、当団体へメールでメッセージも頂きました。

このICTによる双方向WEB支援事業を始めて3年が経ち、さらに嬉しいニュースも舞い込んできました。文部科学省は今年9月に、病気やけがで長期入院や自宅療養している小中学生がICTを活用して双方向の授業に参加する「遠隔教育」を受けた場合、出席扱いとする通知を全国の教育委員会などに出しました。ポケットサポートとしては、これまでベネッセこども基金さんと一緒に作ってきた、双方向WEB支援がさらに公的にも認められるような形を進めてけるよう働きかけていきます。病気による困難を抱える子どもたちが希望を持てる未来になるよう、本事業に一層取り組んでいきたいと思っております。

【団体名】

認定NPO法人 ラ・ファミリエ

【URL】

<http://www.npo-lafamille.com/>

【申請事業名】

入院中の学習支援及び復学支援のための 対面ないし遠隔地に対応可能な支援者育成事業

【メッセージ】

この度は、一昨年、昨年度に引き続き本事業についてのご支援を賜り誠にありがとうございます。

私たち認定NPO法人ラ・ファミリエは、平成14年7月に設立し、病気の子どもとその家族の支援活動を行ってきました。難病の子どもとその家族の滞在施設の運営を平成27年度より愛媛県・松山市より委託を受け、ラ・ファミリエジョブサロンにて、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業を行っております。その中で、学習についての相談のニーズがあり、学習支援の事業を開始しました。

一昨年度、昨年度は、学習支援者育成を目的とした研修会を実施してきました。病室や自宅での対面支援やタブレット端末を使った遠隔支援により、病気の子どもが今いる場所での学習を確保できるように、研修内容を精査し、実施しています。ここ2年で支援者の輪も広がり、増えるニーズにも対応できるようになってきています。この度の助成では、都市部のみならず、遠隔地での学習支援を推進するために、オンデマンド学習システムの開発による人材育成にも力をいれることができました。

つい最近、初めて学習支援をした子どもから「次はいつ勉強教えに来てくれるの？明日？」と聞かれました。勉強を教えてくれる人が来ると聞いて、自主勉強したであろうワークを5教科全部持ってきて、そこからたくさん質問を繰り返してきた受験生もいます。実際に学習支援をしていると、病気の子どもの学習保障が不十分であることや学習支援の必要性を改めて実感します。さらに支援の輪を広げ、より多くの子どもたちが、子どもらしく日々を過ごせるように活動していきたいと思えます。

【団体名】

特定非営利活動法人み・らいず

【URL】

<http://me-rise.com/>

【申請事業名】

ホームページとSNSを活用した医療的ケア児についての情報発信
保護者向け相談会、医療的ケア児ときょうだい家族対象イベント
支援者育成

【メッセージ】

今年度も引き続いて、ご支援いただきありがとうございます。

近年、医療の向上に伴い、今までは助からなかった早産児や重い病気や障害をもった子どもの命が助かるようになってきています。しかし、「医療的ケア児」の子どもたちは「想定外」とされ、教育や福祉サービスなどの支援の狭間に落ちてしまっているのが現状です。これまで、私たちが出会ってきた保護者の方からも、「受けられるサービスが少ない」「遊びや教育の選択肢が少ない」という声を聞いてきました。「医療的ケア児」の学び・余暇の幅を広げていくことは、子どもたちの成長を考えていく上でも非常に重要です。

助成2年目となった2018年度は、イベントの参加対象者と実施地域の拡大を行いました。それにより、初年度よりも多くのお子さん、保護者の方とお会いすることができ、本事業の必要性を実感しました。また、保護者の方から、「きょうだいで一緒に参加できてよかった」という声もあり、きょうだい参加が可能であったイベントは、家族支援にも繋がっていたと考えます。

また、「保護者同士で話すことができよかった」「いろんな情報を知ることができた」という声もありました。医療分野とのつながりはあるが、身近に同じような悩みを持つ相談相手がおらず、子どもの成長していく姿を想像することも難しく、どのようなサービスがあるのか、使うことができるのかがわからないという保護者の方は少なくないように思います。2019年度では、保護者の方が24時間の育児の合間、SNSを活用して情報収集を行うことができるよう、ホームページやSNSを活用した情報発信を行います。

今年度は、これまでの繋がりをより深く、さらに新しい方々と出会うことができるよう、スーパーバイザーや他団体からのアドバイスも受けながら、継続的な事業を目指して、スタッフ一同進んでいきたいと思っております。